事業常任委員会 岡山県津山市視察概要

津山は山間部ということで昔から牛の飼育が盛んで、食肉処理センターがあったことから、新鮮なホルモンを入手しやすく、５０年以上前から食堂、焼肉店などで食べられるようになっていた。しかし、ホルモンうどんは男の食べ物ということで、時間とともに埋没していった。

平成１７年４月に岡山国体があり、選手たちを地元料理でもてなそうと、市国体担当職員と市民４名で、「津山ホルモンうどんマップ作成委員会」を発足したが、国体業務が忙しく、マップの作成には至らず、紹介のみで終わった。しかし、平成１８年７月に「B’z コピーバンドコンテスト」に配布するため、食べ歩き調査を実施し、コンテストで配布すると予想以上に好評で、市内のイベントでも配布するようになった。

さらに、国体の担当職員が観光振興課へ異動になり、これを機に観光資源として紹介するために市内全域をくまなく調査した。平成２０年３月に「津山ホルモンうどん地図」初版を発行し、現在までで６版６４万５千部を発行している。

このマップの完成を機に、委員会から研究会へ改組し、マップ作製費が行政より支援されていなかったのでそれを稼ぐために、市外へも出向いて津山ホルモンうどんの実演販売をするようになった。マップに掲載するにあたり基準を設け、掲載料もいただき、そのかわり協力店にはのぼりを掲げてもらい、差別化を図った。この取り組みが地元のマスコミに評判になり、県内各地から出店のオファーが来るようになった。研究会のメンバーがボランティアで対応した。出店すれば全て完売し、研究会のメンバーも手ごたえを掴むようになった。

そこで、初の県外遠征ということで、津山市の姉妹都市である長崎に出店したが全く売れず、２０万円の赤字を出してしまった。しかし、それでも積極的に県外イベントへ参加し続けた。そして、「Ｂ－１グランプリ」の主催団体である「ご当地グルメでまちおこし団体連絡協議会」（通称:愛Ｂリーグ）へ参加した。この団体の代表がリクルートの元職員であることなどから、マスコミとの付き合い方が非常に上手な団体である。加盟して最初の大会で第３位を受賞し、その後も入賞を続けた。すると、今まで経営の苦しかったホルモンうどん店に行列ができ出した。研究会のメンバーも地元の店主も予想していなかった成果であった。

そして、平成２２年３月に「おかやまＢ級グルメフェスタ in 津山」を開催した。津山ホルモンうどんを県内に周知し、全国からご当地グルメの団体を招いて、おもてなしの手法を県内に学んでもらいたい思いがあった。２日間で１５万人が来場し、マスコミ取材もかなり受けた。

津山ホルモンうどんの経済効果としては、全国への発信による知名度の向上が第一である。広告宣伝効果は３年間で３億円以上とも言われている。また、観光客も増加した。岡山経済研究所の試算によると、平成２０年の活動開始から１年間で県内で８億円の効果があった。津山ホルモンうどんは開発型のグルメではなく、昔からあったものを掘り起こしたので、費用もかかっていない。そして、平成２１、２２年度の「Ｂ－１グランプリ」への参加を経て、県内で２２億円の経済効果があったとされている。

津山ホルモンうどんの商品開発については、まがい物が出たという苦情から、きちんとした商品管理のために取り組むようになり、商品販売価格の１％を「まちづくり協力金」として受け取り、津山市へ寄付している。

事業常任委員会 岡山県玉野市視察概要

ミッドナイト競輪事業の取り組みの経緯としては、玉野市は小倉競輪場を借り上げ、平成２６年度、２７年度に２節ずつミッドナイト競輪を開催した。売り上げは、いずれも２億８千万円から３億２千万円である。ミッドナイト競輪を２節開催すると、昼間のＦⅡ開催の赤字分を１節分削減できる。ＦⅡ開催は地元の競輪ファンにレースを見せることができるというメリットはあるが、１回開催で３，４千万円の赤字となる。これを年間１０回から１２回開催すると３、４億円の赤字というのが全国の地方競輪場の現状である。ミッドナイト競輪を開催するとこの赤字を解消できる。ミッドナイト競輪を本場で開催すると、上限が８節となるので、昼間のＦⅡ開催の４節分の赤字を解消できることになる。

現在ミッドナイト競輪開催場としては、屋内では、小倉、前橋の２場、屋外では、青森、高地、佐世保の３場である。競輪場を貸すメリットとしては、施設借り上げ料の収入が入ることである。前橋を除いて、売り上げに対して１．５％プラス税の収入が入っている。例えば、１日１億円の売り上げがあるとして、１日あたり１５０万円の収入が入ることになる。３日間で４５０万円の臨時収入となるが、競輪事業でこれだけの収入を上げるためには、本場で１億５千万円から２億円を売り上げて初めて得られるものである。貸す側、借りる側双方にメリットがある事業と言える。

今後の予定については、平成２７年度下半期からミッドナイト競輪開催に参入する予定である。また、来年２月に岐阜県大垣市に競輪場を２節分貸す予定となっている。その後３月にはもう一度玉野競輪場でミッドナイト競輪を開催する予定である。

今後の課題については、今、本場開催と借り上げ施行が年間通じてかなり予定が入ってきている状況である。例えば台風や冬の降雪で日程が延びると、現日程の最終日と、次回日程の初日が重なってしまう可能性がある。この場合のルールが決まり、それによると、先行している競輪場の施行が最終日打ち切りとなる。ミッドナイト競輪に関しては、競合は一切なしとする。たとえ前の開催が順延になっても、後の開催に影響は与えないという考え方から、最終日を打ち切るというルールになった。ミッドナイト競輪の車券を買うルートはインターネットのみとなっている。２場が開催するとこのインターネット投票を奪い合う形になるので、このようなルールになったものである。

この状況で日程がどんどん詰まってくると、夏の台風、冬の降雪で開催できない場合に、思ったほどの売り上げが得られないまま打ち切り、お客さんにとっても楽しみにしていたレースを買えないケースも出てくるので、これにどう対応していくのかが、ミッドナイト競輪場の課題となってくる。

また、つい先日記者発表があったが、九州の飯塚オートで１１月中旬からミッドナイトオートが初開催される。オートは管理団体が同じＪＫＡであり日程調整はしやすいが、競艇もミッドナイトへ参入の情報がある。昼間の開催でも競艇の方が売り上げが上である。競合すれば売り上げが競艇へ流れる可能性があり、対応が迫られている。